

中村清治（古津）

故国日本の復興と発展を願ひとして、戦死者に対して生き残つた俺達は妻子の愛し方、人生の楽しみ方もうまく知らず、ただ働く外にないようになつて、今日の復興が出来たのではないだろうか。日々老いて行く毎日を思うとき、在りし日の苦楽を共にした若かりし青春期の中支の戦場の一駒を追憶し、供養せうにいらぬ。

昭和十三年徴集された、徴兵検査で甲種合格。吾が家は姉二人嫁に行き、老いた父親と病弱の母親を残して、十四年五月一日新発田聯隊第七中隊に入隊した。初年兵教育は厳しく、日中の訓練の時、留守の父母の事などは忘れるが、消灯後はどうなるものかと思う。三か月後、なつかしの兵舎を後に、現役兵の初めての補充要員として中支の第百

十六聯隊に向かつて、大阪港より出港した。

暑い船中、船酔いもなく、元気で上海島嶼上陸。生々しい戦跡を見て、戦地に来た実感がした。暑い最中忠城に到着し、第九中隊に配属された。聯隊では作戦が待っていて、毎日が作戦の準備が多忙なり。早速浦作戦に出発したが、行軍途中でマラリアにかかり、高熱が続き、軍医の診断で入院するようにいわれた。「入院はしたくない、作戦に行くんだ」と涙ながら、軍医に言ったことがおぼろげながらおぼえている。感謝の陸軍病院隊員に入院し、一ヶ月後退院。隊員に復歸すると、亦も又仙桃鎮作戦。冬期作戦、第一次宣昌作戦。第二次宣昌作戦で吾が第三大隊は他の部隊に先立ち、宣昌の一角を占領したのである。宣昌のすぐ北、金盆寺附近の警備長沙作戦、北方作戦宣西地区の警備と数々の作戦があり、日夜の行軍によきも煩張つたものだと思はれよう。今でもはたしてなりとあの様子が思いさされてならない。

昭和十七年五月二十七日は昔

限つて彼等支那軍も日本の醫備地で祝宴をやつてゐるのを狙つて反攻に出てくる。その日も吾が正面九中隊の醫備地第七高地、中島高地、勝開山に最も激烈を極める反攻が物凄く続いた。勝開山は敵に突破されたが、自分は幸ひ十六年現役兵の現地教育の助手として山のふもととの宿舎に待機し、銃声音で一夜まだ行くとせず、伝令で直ぐ応援に往くよう命じられ、數名と出發した。

山の上では勝ち誇つた支那兵の話し声が聞こえてゐるではないか。然も吾が塚田兵長以下五名は未だ掩護を見、おびえてゐるではないか。こうなつた以上陣地を奪回作戦する外ない。十四年現役兵の射撃大会を中止し、急遽勝開山奪回作戦の編成が出来た。田田小隊、土肥小隊の二個小隊はお天氣の良いい中、戦闘を開始した。田田少尉らは「中村君は輕機を持つてあちらの山に登り、援護射撃をするよう」命令したので、三名で山に登り、二個小隊の進撃する様子を探察した。吾が力は宣言より

山砲の砲聲も物凄く、戦闘が進められ、あまりにも立派なあの進撃する姿で突撃するの激戦に死す。土肥少尉 土肥少尉に死す。さつきまで元氣であつた者が死とは信じられない。とどめなく出る涙、悔しさと憤りが戦争という人間をこえた心境に立つて、罪も無き人間を焼くことなど、戦争が激戦になつたことなどである。負けた国を見て来た俺達が、戦争は絶対に負けるれないのと強く信じた。然し今振り返り、人間の運命とはこうして無事に帰つてこられたからであつた。

中支の警備地でよく口ずさんだ。さて、今頃は故郷で兄の無事を折り、陰陰据ゑる親心と毎月の出発日に鎮守様にお祈りしている便りを、姉より戴いて感謝していた。この戦闘で吾が方は将校二名、兵四名の戦死者を出した。本当に激烈な戦つたものだ。十七年九月、内



地に帰る為、紫金嶺出發、南京より朝鮮を経て、十一月二十六日、新発田で除隊。十九年二月十一日、再度召集され、亦も新発田に入隊後、北方松輪島で終戦を迎え、その後シベリアに抑留。二十二年八月まで人間扱いでなく、食物が少なく、みんな

栗原一郎（荻島1）



榮養不良で、動くのもやっと、よくもあの寒い中、作業したものだ。こうして何度も死線を越えて生きてこられたのだ。ありがとう。

無き戦友よ　こいねがわくげ
ご加護を垂れ給わんことを祈る
合掌

※ご本人の都合により、体験手記文のみ掲載します。

一月、世田谷東部第七十二部隊・野戦重砲隊に入隊。その後満州に渡つて、電信第七十三連隊に入り、無線通信教育を受けた。終戦後は三年近くわたりハバロフスクの収容所に入つてゐたそうです。「収容所生活は惨めなものでした。祖国を目にしたときは自然と涙がでてきましたね」と話しています。

年の（私が高等小学校を卒業する年）に、総動員法が公布され、十月には武漢三鎮を占領の報道がなされ次第に戦域が拡大しつつあった。一九三八年、私が高一のとき満蒙開拓青少年義勇隊の隊員が我が母校より一人渡満されたので、新潟港中央埠頭まで送送のに行った。その頃は食糧増産と軍事工場生産増強に入り、やがて国民徴用令が公布され、一九四一年十一月、私も第一次徴用令として東京無線電機（株）へ入社を命ぜられた。それから三年間、無線組立工として働く傍ら、青年学校では学科と軍事訓練を学び、時には残業もかなりあり、また勤労産業戦士とした。一九四四年十一月には家からの電報で現役兵入隊の通知を受け取り、即退社手続きした。

翌々日世田谷東部第七十二部隊・野戰重砲隊へ無事入隊。翌日には冬服が支給され、真新しい新兵さんとなる。二日後には満州派遣の命令が出て、夕食後軍用列車に乗り込む。発車して間もなく多摩川の鉄橋を渡り始める。品川工業地帯はB29による爆撃で炎が赤々と見えた。渡過後は電信十三連隊に編入され、翌年八月九日ソ連軍侵攻により交戦し、十五日の終戦放送までは敦河の山中に聴いた。十一月にはソ連軍に連行され、ハバロフスクの奥地収容所へとトラックで送り込まれた。そこが収容所で生活の始まりで、皆の不安そうな顔が浮かぶ。十日位住居の整理で、その後次々と新しい仕事に従事する。主な仕事は薪割り、二日後後半より倉庫作業に従事す

戦争体験手記を
冊子にします

戦争体験手記を冊子にまとめ、希望者に無料で差し上げます。

紙などを掲載します。

なお、発行は来年一月末日を予定しています。くわしいことは、広報にいつでもお知らせします。

お買物、ご用命は市内で

—お買物、ご用命は市内で

ご予約の方に **お祝い品プレゼント**

Bridal Salon 伝 丸 伝

新津店 本町一丁目 ☎(24)3355(代) 新潟店 古町九番町 ☎025(228)58

火坂医院

新町1丁目6-12 TEL(24)5122

動物も家族の一員です。



診療時間

平日	AM 9:00 ~ PM 1:00
土曜	AM 9:00 ~ PM 1:30
日曜・祭日	AM 9:30 ~

小島動物病院 秋葉2丁目（秋葉公園入口）
Phone 24-2223

- 犬・猫・小鳥・小動物診療
- 内分泌科
- 皮膚科
- 犬 人工授精科
- 動物コンサルタント
- 処方食・フード
- グルーミング
- 犬ニル

花
観光道路
至五泉
秋葉公園
当院
駐車場完備
マンション
老人福祉センター

五五五